

# 一般廃棄物許可業者の ワンポイント講座

白井グループ(株)  
企画管理部

阪本 大介 Sakamoto Daisuke



vol. 10 | IT導入による課題解決 (最終回)

理系大学院を卒業後、私は廃棄物リサイクルの業界に魅かれ当社に就職した。入社当初から収集運搬の現場に近い業務、特に配車に関わる業務に携わることが多く、その中で事業系廃棄物収集運搬業者の課題を目の当たりにしている。

配車係の業務は想像をはるかに超える過酷なものである。毎日の収集運搬ルートの確認に加えドライバーへの伝達や顧客対応まで、多岐にわ

たる業務をこなさなければならぬ。もし、配車係が倒れてしまったら、途端に現場は回らなくなってしまう。配車係の業務簡素化に向けて対策を講じる必要があるのだ。

そんな中、当社は静脈物流に関する勉強会で「自動配車計算ソフト」という画期的なシステムの存在を知り、これをシステム会社と協議し、廃棄物物流専用システムとして開発。これにより約1000社にも及ぶ客先の複雑な収集ルート作成が短時間で可能となった。また、このシステムを利用し、東京都と連携して廃棄物効率回収に関する実験事業を行った。「廃棄物回収効率化及び再資源化支援業務委託」と呼ばれる本実験では、手作業での配車とシステムによる配車をそれぞれ実際に収集車がデモ走行し、走行時間にどの程度の差異が発生するのかを調査した。結果、自動計算による配車は人力での配車に比べて、1コース当たり約40〜50kmの走行距離削減を可能にすることが判明したのである。

この自動配車システムがさらなる力を発揮したのは、同業他社との業務統合の時であった。当社の既存顧客と統合先の顧客との収集ルートの連携及び構築は、従来の手動で組み

立てる配車であれば相当な手間がかかる。しかし、自動配車システムを用いることで、収集ルート構築の時間が大幅に削減されただけでなく、廃棄物収集運搬会社の2大コストである、車両費と人件費を約1000万円削減し、かつ最も効率的な収集ルートを策定することができたのである。

収集運搬ルート作成のオートメーション化は、配車係の業務負担を軽減するだけでなく、コスト削減という大きな成果をもたらした。しかし、ITの導入について全く異存がないわけではない。「現場には物流のIT化など不要」といった声があるのもまた事実である。これまでの蓄積したノウハウを大切にしたい現場の考えを受け入れつつ、システム一括管理により非効率な配車をなくし、かつ効率の良い収集ルート構築を実現していきたいと考えている。

収集運搬業者にとって配車業務は多忙かもしれない。しかし、やりがいのある仕事には違いなく、ITの導入などで可能な限りその業務を支えていく工夫が必要である。

## 社内の課題解決から社会貢献へ

私は、廃棄物収集運搬事業は、電

気や上下水道と同じようなインフラ産業であると考えている。東京の都市インフラの一端を担う企業として、現在、(株)日立製作所が進めているスマートシティの取り組みに都市マネジメントインフラの部分で協力している。環境配慮型都市構築のためには、街にあふれる廃棄物を効率的に収集し、都市美化を進めることが重要であり、当社の自動配車システムがそれに大きく貢献できる。また、スマートシティのさまざまなインフラを連携させるためには、ITの活用が必要不可欠である。配車業務の簡素化という、社内のミクロな視点で導入したITだが、業界全体及び業界を超えたマクロな世界で大いに役立つことができると実感している。W

### ●執筆者プロフィール●

阪本 大介 | Sakamoto Daisuke

廃棄物のトータルプランニングを手掛ける白井グループ(株)の企画管理部勤務。自動配車システムの管理・運用のほか、廃棄物物流効率化のコンサルティングを行っている。